

郡上長滝寺と飛騨匠



<http://digitalarchiveproject.jp/information/郡上長滝寺と飛騨匠/>



天台別院長瀧寺と藤原宗安

白山中宮長瀧寺は、奈良時代の養老年間(717-724)越前の僧泰澄の創建とされ、平安時代から白山信仰の拠点となる。明治維新の神仏分離令で長滝白山神社と白山長瀧寺となり、荘厳な伽藍殿堂が林立した白山中宮長瀧寺は、明治32年(1899)4月10日の大火により堂社のほとんどが焼失したが、境内には石灯笼や堂塔の礎石など中世寺院遺構が点在する。幸い大正から昭和にかけて神社本殿と拝殿、長瀧寺の講堂などがもとの場所に再建され現在に至っている。

最初の大火は文久八年(1271)10月にも神社仏閣十四棟、大講堂・鐘楼・経蔵は何も出せず全焼したが、40年後の応長元年(1311)七月四日に社殿再建に取り掛かる。

(以下は再建時の棟札に記載されていた)

上棟奉造立大講堂1棟 上棟

院主は唯性大徳 学頭(首席の教師)権律師の慶讃

大勸進(最高責任者の僧)法橋栄誠 小勸進(補佐)貞家大誠

惣在庁(役人の筆頭)阿闍梨光圓 並満山(寺全体)衆徒

大工肥前権守的宗里

飛騨権守藤原宗安

権大工は太郎太夫宗綱 孫太夫藤原宗行

音頭 右近太夫橋宗定 太郎太夫窓宗空 大工以上三十二人トアリ

1271年の焼失以来、明治32年4月10日に2度目の火災により再び焼失したのは真に残念だが、飛騨の匠として奈良時代に活躍した勾猪麿とこの鎌倉時代の藤原宗安の二人だけが史実として実在した飛騨の匠である。藤原宗安とその一統について「白鳥町教育委員会編集『白鳥町史 資料編』411~431ページ 白鳥町発行 昭和48年」に記録されている。



0003 三神殿



0004 境内全景



0005 拜殿



0006 明治の大火以後再建 白山大御前 越南智 別山 若宮全景 0007 白山への道 石碑



0008 長滝寺入口の石碑



0009 長滝寺入口石碑



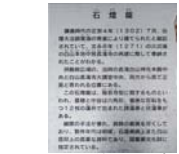
0010 鳥居に向かって



0011 往時の白山中宮長滝寺 説明パネル



0012 白山長滝寺 説明パネル



0013 石灯笼 説明パネル



0014 長滝寺の図 往時の長滝寺 説明パネル



0015 長滝寺の歴史



0016 長滝寺由緒



0017 大講堂2



0018 大講堂3



0019 大講堂正面



0020 大講堂礎石



0021 大講堂礎石1



0022 大講堂近接



0023 焼失前長滝寺の大講堂



0024 現在の大講堂側面より



0025 現在の大講堂前面より



0026 石灯笼から大講堂を見る



0027 石灯笼



0028 石燈籠



0029 石燈籠A



0030 天台別院長滝寺図面 彫刻印刷東京醒



0031 白山中宮濃州長瀧寺之図 (若宮成光氏所蔵)



0032 長滝寺絵図 江戸時代製作